

インターバンクの声（2015 年 7 月 28 日）

最初にどこにでも例外があるのは承知だが、一般論としてアジア市場で為替を追い掛けるディーラーの内、神経質な位に欧州株価の動向をチェックしている人数は、それ程多くないだろう。勿論、英 FT100 や独 DAX の日々の上昇・下落くらいは、ほぼ全員がチェックしていると思うが、昨晚の値下がりでは英 FT100 の値下がりが 5 営業日連続となっていたと即答出来る人は限られるはずだ。ただ、上海株となると話は別だ。昨日の 8% 超の値下がりを感じにしないような人は皆無と思われ、ギリシャ問題が目先暫く為替変動の主役材料ではなくなった今、アジア市場だけでなく 24 時間中にわたって世界中で、上海株の動向と中国経済の鈍化懸念が金融市場の心理状態を大きく左右しているからだ。6 月中旬から始まった上海株の下落は、その後 7 月上旬まで続き、高値から約 35% も下落したが、中国当局のなりふり構わぬ介入もあって下げ幅の 4 割強ほど戻していたが、昨日その戻しの半分以上を消してしまった。木曜日、東京の未明にわかる米連邦公開市場委員会（FOMC）の結果も気になるが、その前に上海株が 7 月 9 日の安値 3373.54 レベルを割り込むのか反発に向かうのかが大いに気になるところだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。